

第7回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成25年度）

朝比奈 利明	山梨県南巨摩郡身延町 身延町早川町組合立飯富病院・院長
<p>昭和58年自治医科大学卒。昭和62年6月から飯富病院の内科医として勤務、以来26年間地域医療に従事し、同病院での外来診療、病棟業務のみならず、同病院が多数配置している出張診療、また訪問診療、往診と昼夜を問わず、一貫して精力的に実施し、在宅医療、へき地医療の充実を図ってきた。平成8年4月に副院長に就任し、併設の介護老人保健施設との連携を強化し、さらに在宅ステーションを開設するなど、医療・介護・在宅とのネットワークを確立した。平成9年には同病院に透析施設の開設を行い、患者さんにとってより身近な医療提供に努め、平成22年4月院長に就任後は、へき地医療拠点病院の先頭に立ち、地域包括医療・ケア実現に取り組んでいる。新医師臨床研修制度における、地域保健・医療分野の研修については、県内随一の人数で初期研修医を受け入れ、また、医学部生にプライマリケアや地域包括医療・ケア、病院間の連携について、その豊富な経験と知識をもって教育を行っている。いまや同病院は山梨県内の地域医療のメッカと認識されるまでになっている。</p>	
後藤 忠雄	岐阜県郡上市和良町 郡上市地域医療センター・センター長
<p>平成元年自治医科大学卒。平成3年から延べ20年間岐阜県のほぼ中心に位置する旧和良村(現在郡上市和良町)の郡上市地域医療センター国保和良診療所に勤務し、へき地医療に従事している。平成16年の町村合併を機に、へき地の複数の診療所を地域医療を専門とする複数の総合医によって支え、管理運営する組織が必要であるとの考えを市幹部、議会に自ら説き、へき地医療機関を総括して管理運営する郡上市地域医療センターの立ち上げに尽力した。この試みは、これからのへき地医療を支えるモデルとして、県内の自治体から注目されている。センター長に就任してからは診療所群としての役割として、外来診療、一次医療、在宅医療をより重視し、特に医療過疎地の支援を行うとともに、保健福祉事業としての特定健診、特定高齢者把握も含めた介護保険事業の支援、老人保健施設の運営を行うなど、へき地における保健、医療、福祉を一体として推進した。加えて医学生や研修医の受入れ、高校生、医学生、看護学生を対象としたへき地医療研修会の実施といった医学教育事業や住民と地域医療を考える市民フォーラムの開催、意見交換を行う地域医療懇話会の実施などを積極的に企画し、幅広く精力的に活動している。</p>	
高見 徹	鳥取県日野郡日南町 日南町国保日南病院・院長
<p>昭和57年鳥取大学医学部卒。昭和60年から日南町(山村振興法、過疎地域自立促進特別措置法、豪雪地帯対策特別措置法の指定地域)に所在する日南町国民健康保険日南病院において地域医療に従事し、平成9年からは同病院の院長として、臨床の現場に立つ共に、医療、保健、福祉連携の地域包括医療・ケアに力を注ぎ、当県の地域医療の確保、住民の健康福祉の増進に尽力している。日南町は高齢化率が45パーセントを超え、日本の高齢化の30年先を行く高齢化社会を経験しており、このような状況を打開するために、日南病院では「地域自らが、地域の生活自立障害者を地域で支える力をつけること」を目的に、地域住民と医療・保健・福祉の関係者及び行政が連携した医療を、昭和57年から展開している。年間約2,000件行っている訪問診療には、院長自らも赴くなど、「各家庭は病院のベッド、町の道路は病院の廊下」を合い言葉に、病院職員と共に「出掛ける医療」を実践し、住み慣れた家で療養する多くの患者の生活を支えている。</p>	

渡辺 俊晴	香川県高松市塩江町 高松市民病院塩江分院・院長
<p>昭和54年自治医科大学卒。義務年限終了後も引き続き塩江病院内科に勤務し、また、副院長となつてからは病院のマネジメントだけでなく、塩江地域の医療の充実に努めた。平成25年1月、高松市と香川大学の協定締結により、高松市民病院塩江分院及び附属香川診療所をフィールドとする地域包括医療に係る研究や医学生・臨床研修医を対象とする教育・実習等を行う地域包括医療学講座を開設した。8月より、寄附講座による高松市民病院塩江分院等での医師の診療が本格的にはじまり、地域住民の安心・安全につながっている。平成25年度、地域住民との交流や愛着など、地域医療スピリットを学ぶ場を提供する「地域医療スピリット」を高松市民病院塩江分院及び保健センターを拠点に企画、開催した。また、自治医科大学、香川大学医学部附属病院地域医療教育支援センター、香川大学医学部寄附講座「地域包括医療学」との協力・連携のもと、医学生13名だけでなく、自治医科大学卒業医師や香川大学医学部医師を対象とした地域医療教育を実践した。</p>	
菊池 良夫	愛媛県西予市宇和町 西予市立宇和病院・副院長
<p>昭和59年自治医科大学卒。義務年限終了後、県南予地域のへき地に所在する西予市立宇和病院(へき地医療拠点病院)において約20年間一貫して地域医療に従事している。現在は、内科の診療をはじめ、救急医療への対応、老人福祉施設の嘱託医など幅広い業務に従事しつつ、副院長として院内をまとめ、高齢化率の高い地域の特性を踏まえて、患者それぞれの病状、社会環境に適した治療・看護・介護の実践に取り組んでいる。また、へき地医療拠点病院の医師として、周辺診療所の支援に努めるとともに、臨床研修明け3年目の医師等、将来の地域医療を担う若手医師の指導にも熱心に取り組むなど、地域医療の確保に大きく貢献しており、病院内外の医療関係者からの信頼も厚い。</p>	
坪山 明寛	大分県豊後大野市清川町 社会医療法人関愛会清川診療所・所長
<p>昭和48年鹿児島大学医学部卒。昭和59年に豊後大野地域に赴任後、29年にわたり地域医療に貢献している。この地域は、過疎化・高齢化の進んだ山村地域で、平成17年の市町村合併により新しく市が誕生したが、市内に大分県立三重病院、公立おがた総合病院の2つの公立病院があり、医師不足が深刻化する中、病院運営の維持が危惧される事態となった。平成8年から大分県立三重病院長として医師団を率い、二次救急医療機関や災害拠点病院、へき地医療拠点病院など、地域の中核病院として地域医療の充実に向上に努めていたが、このような危機的状況に直面し、公立おがた総合病院との統合を積極的に推進し、平成22年10月、豊後大野市民病院が誕生し、初代病院長に就任した。新病院では、地域で完結できる医療と地域に不足する医療を提供することをめざし、尽力した。また、教育研修環境を整備し、研修医や大分大学医学部学生を受入れるなど、将来の地域医療を担う医師の育成に積極的に取り組んだ。平成25年3月末、新病院の医師確保に一定の目途を立て、病院長職を退任し、現在は豊後大野市清川町の診療所長として、引き続き、地域医療に従事している。</p>	